

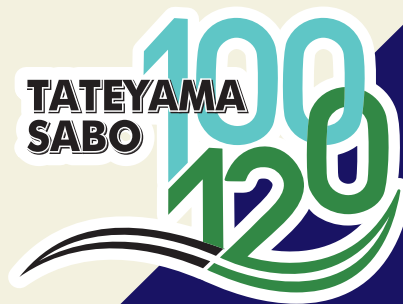
しら  
**白** いわ さ ぼう えん てい  
**岩砂防堰堤**

白岩砂防堰堤は、立山カルデラの出口に位置し、約2億m<sup>3</sup>の不安定な土砂を押さえ込む、常願寺川で最も重要な基幹砂防堰堤です。昭和14年(1939年)に完成し、本堤高63m、7基の副堤を合わせた総落差108mは、いずれも日本一を誇ります。平成21年(2009年)には、砂防施設として初めて国の重要文化財に指定されました。



＼イベント情報はこちら／

立山砂防100年で検索🔍



立山砂防 直轄100年・県営120年 記念フォーラム

開催場所 富山国際会議場 | 令和8年11月21日土

立山には、土砂と闘い富山平野を守ってきたもう一つの歴史がある

たて

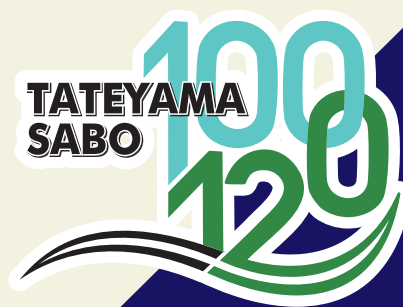
やま

# 立山カルデラ

立山カルデラは、常願寺川上流にある、立山連峰が削られてできた東西6.5km、南北4.5kmの巨大なくぼ地です。安政5年(1858年)の飛越地震で鳶山が大崩壊し、大土石流が富山平野を襲って壊滅的な被害をもたらしました。堆積した膨大な土砂は常願寺川を暴れ川に変え、以降、災害を防ぐため120年にわたり砂防事業が続けられています。立山黒部アルペンルートのごく隣にあり、カルデラ展望台から見下ろせる、ダイナミックな自然の営みが今も続く場所です。

イベント情報はこちら /

立山砂防100年で検索 🔍



## 立山砂防 直轄100年・県営120年 記念フォーラム

開催場所 富山国際会議場 | 令和8年11月21日 土



# 立山には、土砂と闘い富山平野を守ってきたもう一つの歴史がある

どろ

泥

だに

谷

さ

砂

ぼう

防

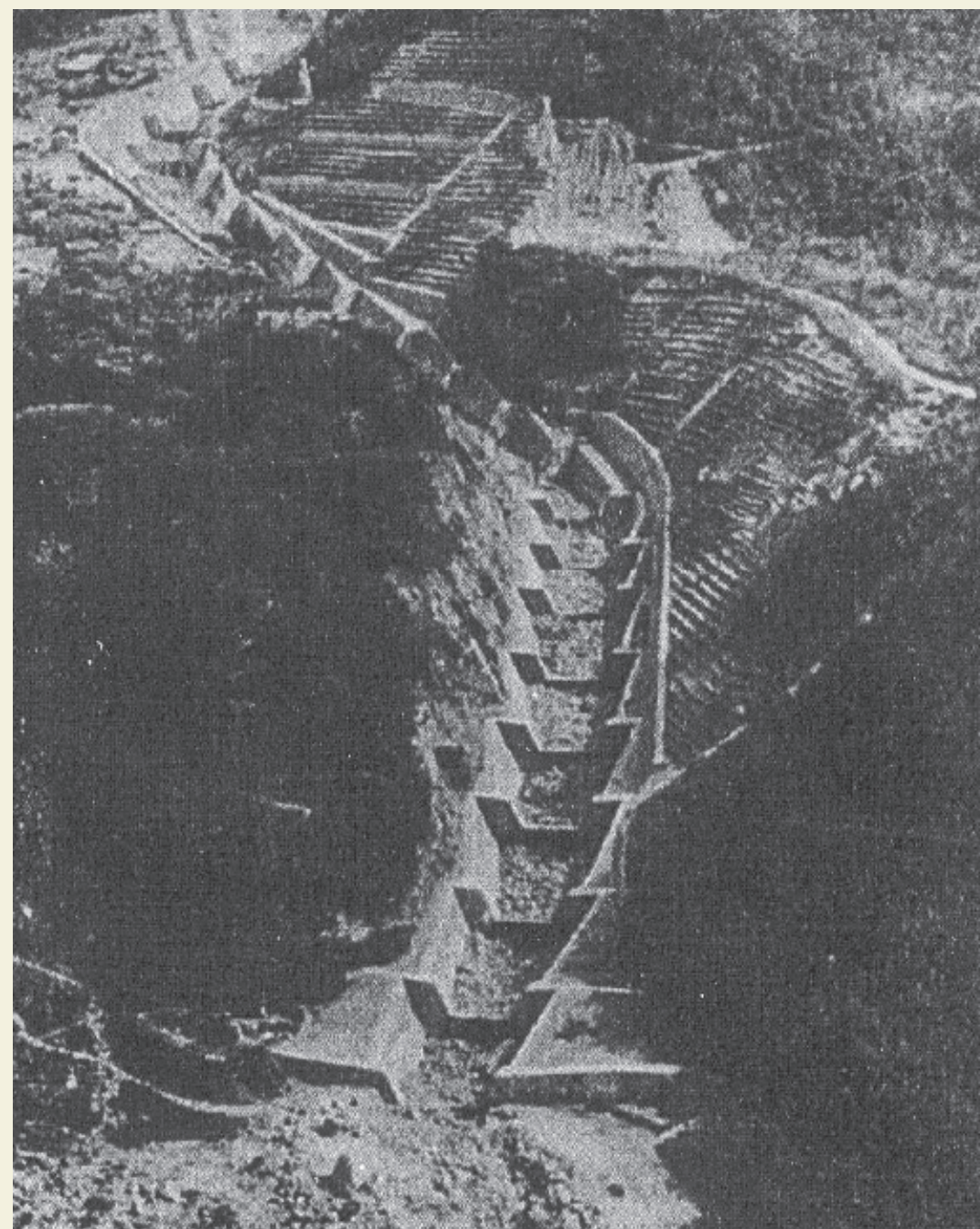
えん

堰

てい

堤

泥谷砂防堰堤群は、立山カルデラ内の泥谷が侵食されるのを防ぐために建設されました。19段の階段式堰堤群は昭和13年(1938年)に完成し、今では谷が安定して山肌も落ち着き、周辺は樹林に覆われるなど、砂防の効果を発揮しています。平成29年(2017年)には、国の重要文化財に指定されました。



写真／重要文化財「常願寺川砂防施設 泥谷堰堤」

イベント情報はこちら /

立山砂防100年

で検索 🔍



立山砂防 直轄100年・県営120年 記念フォーラム

開催場所

富山国際会議場

令和8年

11月21日 土

立山には、土砂と闘い富山平野を守ってきたもう一つの歴史がある

ご

# 護

【てんがいをまもる】

てん がい

# 天 涯

立山カルデラ内の泥谷第一号砂防堰堤には、富山県第14代知事・浜田恒之助揮毫の「護天涯」の碑が残ります。天涯とは天の果ての意。天涯を護る、つまり人里離れた極限の地で下流の平野を守るといふ、砂防に携わった先人たちの気概が伝わります。



「護天涯」の碑を模した記念碑を、立山カルデラ砂防博物館で見ることができます。



●富山地方鉄道立山線  
「立山」駅から徒歩2分



イベント情報はこちら /

立山砂防100年

で検索



立山砂防 直轄100年・県営120年 記念フォーラム

開催場所

富山国際会議場

令和  
8年

11月21日



立山には、土砂と闘い富山平野を守ってきたもう一つの歴史がある

# ほん ぐう さ ぼう えん てい 本宮砂防堰堤

本宮砂防堰堤は、上流から流れてくる土砂を富山平野の手前で捕捉するため、常願寺川の中流域に設置された砂防堰堤です。約500万m<sup>3</sup>という日本最大級の貯砂量を誇ります。昭和12年(1937年)に完成し、平成29年(2017年)には、国の重要文化財に指定されました。



●富山地方鉄道立山線「有峰口」から徒歩16分

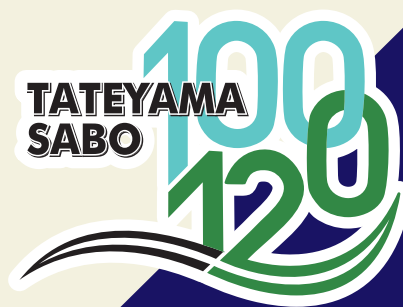
イベント情報はこちら /

立山砂防100年

で検索



写真／重要文化財「常願寺川砂防施設 本宮堰堤」



立山砂防 直轄100年・県営120年 記念フォーラム

開催場所

富山国際会議場

令和8年

11月21日 土

立山には、土砂と闘い富山平野を守ってきたもう一つの歴史がある

だい

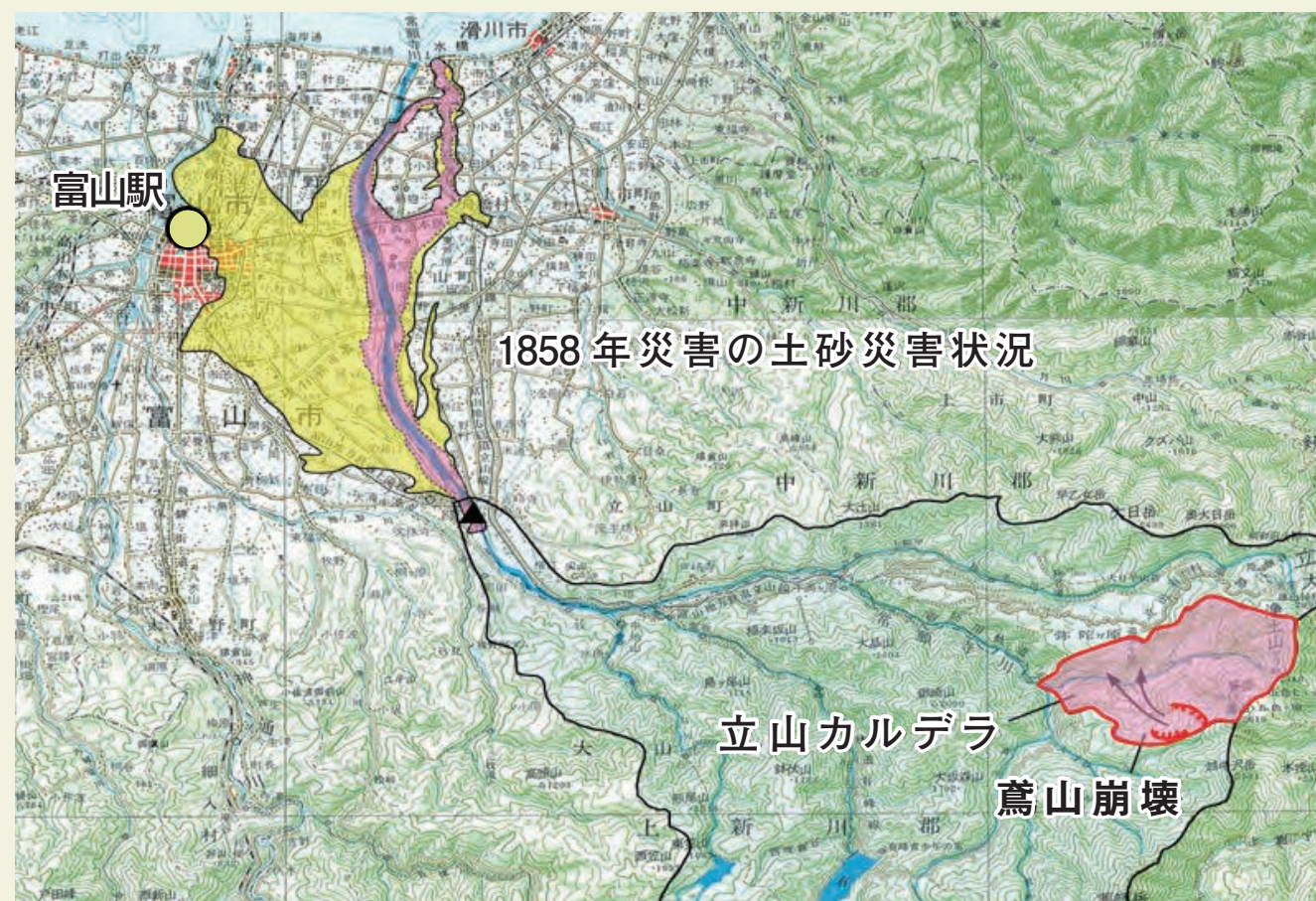
大

てん

せき

転石

常願寺川沿いには、田んぼの中などに直径4～8mもの巨石が40数個も点在しています。これらは安政5年（1858年）の土砂災害で遠く上流から流されてきたもので、当時の災害がいかに凄まじいものであったかを、今に伝えています。



4月23日(旧暦3月10日)の氾濫範囲

6月7日(旧暦4月26日)の氾濫範囲



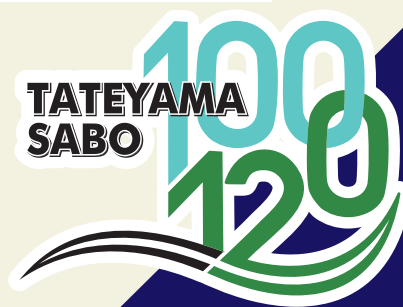
写真／大場の大転石



イベント情報はこちら／

立山砂防100年

で検索



立山砂防 直轄100年・県営120年 記念フォーラム

開催場所

富山国際会議場

令和8年

11月21日

土

立山には、土砂と闘い富山平野を守ってきたもう一つの歴史がある

# けん 県 営 砂 防 施 設

今から120年前の明治39年(1906)に、富山県が立山カルデラ内で開始した砂防事業では、日本の伝統的な工法である空石積による砂防施設を中心に整備されました。

国直轄事業に移管されるまでの20年間で332施設整備され、近年実施した現地調査等により52施設を確認し、整備後100年以上経た現在も砂防施設の効果を発揮していると考えられます。



西五ノ谷の石張水路工(1925年)



現在の西五ノ谷の石張水路工

イベント情報はこちら /

立山砂防100年で検索 🔍



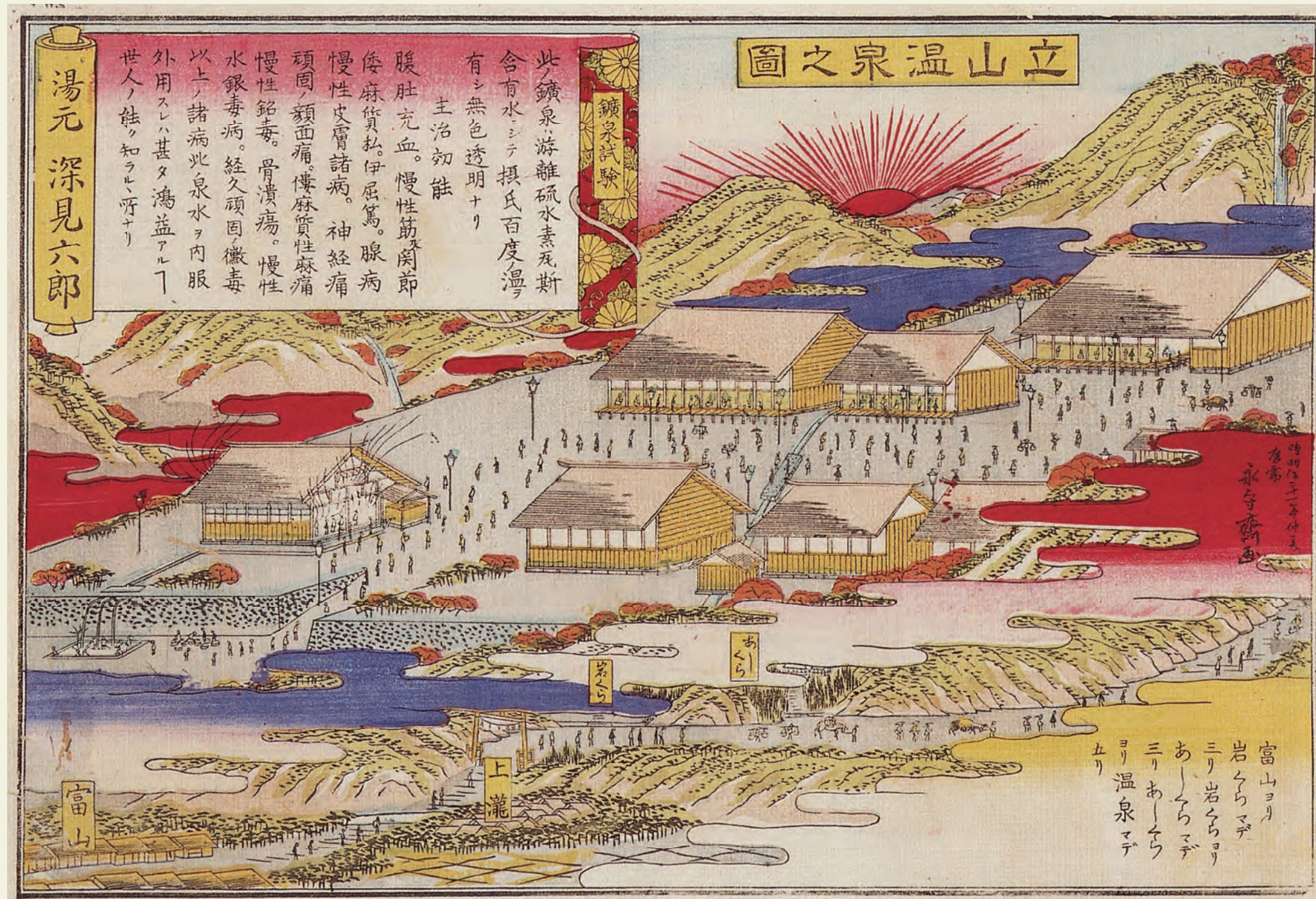
## 立山砂防 直轄100年・県営120年 記念フォーラム

開催場所 富山国際会議場 | 令和8年11月21日 土

# 立山には、土砂と闘い富山平野を守ってきたもう一つの歴史がある

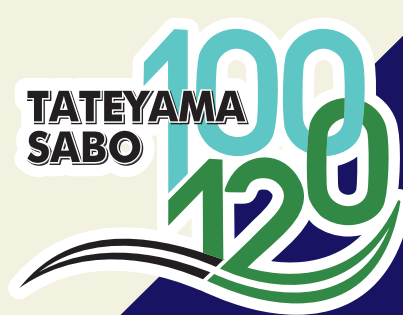
たて  
**立** やま おん **山 温泉** せん

立山カルデラ内にある立山温泉は、今から400年以上前の1580年ころに発見され、富山の武将・佐々成政も入浴したと伝えられています。霊山・立山の名湯として知られ、険しい山奥にありながら、富山県内だけでなく能登・加賀・福井からも多くの湯治客が訪れました。明治期になると立山登山の基地や立山砂防の拠点となり、ピーク時には温泉客と工事関係者を合わせて1日900人もの人々で賑わいました。しかし、昭和44年(1969年)の大雨で登山道が流失し、昭和48年(1973年)に閉鎖されました。



イベント情報はこちら /

立山砂防100年で検索 🔍



立山砂防 直轄100年・県営120年 記念フォーラム

開催場所 富山国際会議場 | 令和8年11月21日 土

立山には、土砂と闘い富山平野を守ってきたもう一つの歴史がある